



鳥取県立船上山少年自然の家 主催事業

令和6年度「船上山スクール体験入学」実施報告書

I 事業の概要

1. 期日 令和7年3月1日(土)

2. 日程

午前		午後	
9:00	受付	13:30	3時間目「ずこう」 ～フォト&メモクリップ～
9:30	あさのかい(出会いのつどい)		
9:50	1時間目「こくご・さんすう」 ～ことばや かずで あそぼう～	14:30	感想記入
10:50	2時間目「たいいく」～ゆきあそび～	14:45	かえりのかい(別れのつどい)
12:15	給食	15:00	さようなら

3. ねらい

小学校の学習体験を通して、4月からの小学校生活への期待と意欲を高める。

4. 対象 年長児とその保護者 16組

5. 応募者数・当日参加者数

応募者数 31組65名
当日参加者数 15組31名 (年長園児15名 保護者16名)

6. 参加費 900 円

II 実施状況

■〈3月1日(土) 天候 晴れ〉

当初は2月22日(土)に開催を予定していた本主催事業だが、この日までに降った大雪の影響で一旦は中止が決まっていた。しかし、1週間後の3月1日(土)は偶然にも利用予定団体がなかったため、急遽期日を変更して開催することができた。

開催当日、参加者の年長児は、保護者と一緒にやや緊張した面持ちで船上山少年自然の家にやってきた。実際に小学校で使用するような机と椅子に着席し、しおりに自分の名前を書いたり、思い思いの遊びをしたりしながら開会を待っていた。

9時30分にあさのかい(出会いのつどい)が始まった。年長児たちは、所長(校長先生)のあいさつや指導員(先生)の自己紹介をよく聴いていた。最初はとても緊張した様子の年長児たちだったが、徐々に反応の声も大きくなり、笑顔も見えるようになってきた。参加者紹介では、指導員に名前を呼ばれた年長児たちは、手を挙げて元気よく「はい!」と返事をすることができた。

「あさのかい」を終えると、いよいよ年長児たちが楽しみに待つて



いた1時間目「こくご・さんすう」の学習が始まった。前半の「こくご」の時間では、言葉や文字への関心を高める学習活動を実施した。最初は「あ」のつく言葉を出し合い、声に出して読む活動を行った。次に、手を叩きながら言葉を声に出す活動を行った。年長児たちは楽しんで活動に取り組むとともに、実際の1年生の学習内容にも少しだけ触れることができた。

後半の「さんすう」の時間では、数や量への関心を高める学習活動を実施した。まずは、2人組で指を出し合って5を作るゲーム「じゃんけん5」を行った。次に、さいころの出た目の数だけカプラをつなげて並べる「カプラならべゲーム」を行った。年長児たちは、友だちと一緒に数や量に親しむ活動を楽しむことができた。学習が終わる頃には、どの子もすっかり緊張がほぐれた様子であった。

次に、2時間目「たいいく」の学習である。1週間前に降った雪が残っており、多くの年長児が心待ちにしていた雪遊びを実施することができた。年長児たちは、同じ班の友だちや保護者と一緒にそり遊びを楽しんだ。滑った後は斜面を登って戻ってくる必要があるが、年長児たちは時間のある限り何度も喜んで登る・滑るを繰り返し、活動を力いっぱい楽しむことができた。

きゅうしょく(昼食)では、実際の小学校の給食と同様に、マスクを着用して班ごとに配膳をした。年長児たちは、友だちや保護者と協力して食べ物や食器を運び、食事の準備に取り組んでいた。船上山少年自然の家での食事は初めてという子が大半であったが、普段通っている保育所・幼稚園等でも給食の準備や片付けを毎日していることもあり、さほど戸惑うこともなく自信をもって取り組めているようであった。食事中には、各班とも子ども同士や保護者同士で会話を楽しむ様子が見られた。

休憩時間をはさみ、3時間目は「ずこう」の学習を行った。今回の題材は、「フォト&メモクリップ」や「マグネット」である。これから行われる卒園式や入学式などで撮影した写真を飾ったり、小学校から持ち帰るお便りを家庭で掲示したりするのに使ってほしいと指導員から説明があり、作品づくりが始まった。作業の中ではグルーガンを用いることもあった。年長児たちのほとんどはグルーガンを使った経験がないということだったが、保護者に見守られながら作品づくりに夢中で取り組む姿が見られた。時間内に全員の作品が出来上がり、年長児たちも保護者も満足そうな様子であった。

活動終了後には、今回の「船上山スクール体験入学」での楽しかったことやうれしかったことを振り返り、感想を記入する時間を設けた。年長児は文字を書くことにまだ慣れていないため、保護者に補助していただいたが、ほとんどの子が自分で感想を書こうとしており、意欲の高さが感じられた。発表する時間を設けたときも、想定していたより積極的に手を挙げて思いを伝えようとする年長児が多く、楽しかった思いや、小学校に向けての意欲が十分に伝わってきた。初めて出会う仲間や大人も多くいる中で、自分の気持ちを積極的に伝えようとするのは素晴らしいことだと感じた。

かえりのかい(別れのつどい)では、所長(校長先生)から記念



品の鉛筆が全員に手渡された。名前を呼ばれた年長児は、力強く返事をし、充実した表情で記念品を受け取った。今回の主催事業を通して、年長児も保護者も小学校入学に向けて心の準備を整えるとともに、新たな友だちや仲間をつくるきっかけを得ることができたのではないだろうか。



Ⅲ 総 括

1. アンケート結果

《参加者の満足度》

(参加者数:15組31名 アンケート回収率:100%)

事業全体の満足度 満足:15組

《参加者の感想(抜粋)》

【年長児】

- ・ こうさくとさんすうがたのしかった。
- ・ ゆきあそびがたのしかった。
- ・ ずこうでいいさくひんができてうれしかったです。

【保護者】

- ・ 一度中止とされていたのに参加者のために再度日程調整いただいたこと、本当に嬉しかったです。入学してからの姿が見えたようで、親としては安心させていただきました。一度きりのスクール体験に参加できて本当に良かったです。
- ・ 中止でなく延期で実施していただきありがとうございます。学校に行ったらこんな感じですよすのかなと親も良い体験になりました。雪遊びや工作で子どもと一緒に楽しむことができたのも良かったです。他の園の保護者の方と話す機会にもなって良かったです。本当にありがとうございました。
- ・ 小学校ってどんなところだろう、どんな勉強をするのだろうとドキドキしている中で、このような体験ができてとても良かったです。指導員の方もとても丁寧な対応で、安心して参加できました。また他のイベントにも参加してみたいです。ありがとうございました。

2. 成果

- ・ 年長児や保護者にとって、満足度の高い内容であった。
- ・ 「小学校入学」というテーマに沿って、充実した活動を提供することができた。

3. 課題

- ・ さらにねらいに迫るために、各活動の内容や指導員の関わり方について見直しを図りたい。
- ・ 天候の影響で開催できない場合の対応について、事前に想定しておく必要がある。